

水稲の初期生育状況（6月25日現在）と栽培上の留意点について

発信日：2024年6月26日

1 生育状況

6月25日現在の水稲の生育状況は、平年値(2014～2023年までの過去10年平均)と比べて、表1のとおりです。

表1 水稲の生育状況(6月25日現在)

| 品種 | 移植時期 | 草丈 | 茎数 | 葉色 |
|---------|------|----|-----|----|
| はるみ* | 6月上旬 | 長い | 同等 | 同等 |
| キヌヒカリ* | 6月上旬 | 同等 | 同等 | 同等 |
| てんこもり** | 6月上旬 | 長い | 少ない | 同等 |

*2014～2023年までの過去10年平均との対比、**2018～2023年までの過去6年平均との対比

2 栽培上の留意点

気象庁が6月20日に発表した1か月予報(6/22～7/21)では、気温は「高い」、降水量は「ほぼ平年並」、日照時間は「ほぼ平年並」の見込みとなっています。今後の栽培管理については、次の点に留意してください。

(1) 水管理

苗が活着してからは、分けつを促進するために、浅水(概ね2～3cm)で管理しましょう。

(2) 中干し

中干しは、過剰分けつ抑制と根への酸素供給、田面を固め倒伏を予防するために実施します。最高分けつ期頃から5～7日程度水を切り、田面に軽いひび割れができる程度に干しましょう。

(3) 雑草防除

ア 藻類の発生が目立っています。藻類が多発すると、地温の低下等により水稲の生育が抑制されることがありますので、一時的に水を落としたり、藻類の発生始期から発生盛期に効果がある除草剤を施用します。

イ ノビエ(写真1)、イヌホタルイ(写真2)、コナギ(写真3)、オモダカ、クログワイ、クサネム等が見られたときは、早めに中期剤や後期剤を施用します。

ウ ナガエツルノゲイトウ(写真4)の発生地域が拡大しています。水田に疑わしい雑草が見られたときは、最寄りのJAまたは農業技術センターに連絡してください。



ノビエ(写真1)



イヌホタルイ(写真2)



コナギ(写真3)



ナガエツルノゲイトウ(写真4)

(4) 水田周辺の雑草管理

斑点米カメムシ類（写真5）は水田周辺の雑草に生息し、出穂期になると水田に侵入、籾を吸汁し斑点米を発生させ、落等の要因となります。日頃から畦畔や水田周辺の除草管理を徹底しましょう。また、水田に苗を放置すると病害虫の発生源となるため、早急に除去しましょう。



アカヒゲホソ
ミドリカスミカメ



アカスジ
カスミカメ



ホソハリカメムシ



クモヘリカメムシ



イネカメムシ

斑点米カメムシ類（写真5）

※ この他の病害虫防除対策は、病害虫防除部の「令和6年度病害虫発生予察情報」を参照してください。

https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/2024_4_01.html



【参考】

表2 農業技術センター（平塚市）における過去10年（2014～2023年）平均

| 作期 | 品種名 | 中干し時期 | 穂ばらみ期 | 出穂期 |
|-------|--------|------------|--------------|-------|
| 6月上旬植 | はるみ** | 7月11日～16日頃 | 7月26日～8月10日頃 | 8月10日 |
| | キヌヒカリ | 7月10日～15日頃 | 7月25日～8月9日頃 | 8月9日 |
| | てんこもり* | 7月16日～21日頃 | 7月31日～8月15日頃 | 8月15日 |
| 6月中旬植 | はるみ** | 7月17日～22日頃 | 8月1日～8月16日頃 | 8月16日 |
| | キヌヒカリ | 7月15日～20日頃 | 7月30日～8月14日頃 | 8月14日 |
| | てんこもり* | 7月20日～25日頃 | 8月4日～8月19日頃 | 8月19日 |

- ・ 穂ばらみ期は、出穂期約15日前～出穂期までの期間。水稻が最も水分を必要とする時期なので、湛水状態を保つようにする。
- ・ *2018～2023年（6年平均）のデータに基づく。 **2015～2023年（9年平均）のデータに基づく。

問合せ先
農業技術センター普及指導部作物加工課
TEL：0463-58-0333 内線381～384